

# ReoAL

2013.7 Vol. 19

NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS





# 今どききの徳川家

## 徳川慶朝

とくがわ・よしとも  
1950年、静岡県に生まれる。徳川第15代将軍慶喜公の曾孫にあたり、旧公爵徳川慶喜家の当主。1972年から20年間、広告制作会社・東京グラフィックデザイナーズのカメラマンとして勤務し、退職後はフリーランスとして活躍。現在は、茨城県に在住し、自ら焙煎したコーヒー豆を茨城県のコーヒーメーカーから「徳川将軍珈琲」として販売。2011年に「徳川将軍珈琲」がモンドセレクション金賞を受賞。主な著書に『将軍が撮った明治—徳川慶喜公撮影写真集』(朝日新聞社)、文春文庫『徳川慶喜家へようこそ—わが家に伝わる愛すべき「最後の将軍」の横顔』(文藝春秋社)、文春文庫『徳川慶喜家の食卓』(文藝春秋社)、角川新書『徳川慶喜家カメラマン二代目』(角川書店)などがある。

私はどうも珍しい苗字の家に生まれてしまったようです。私の曾祖父は徳川慶喜で、江戸幕府最後の第十五代将軍でした。今年が、亡くなってちょうど百年になります。法事などはやらずに、松戸市戸定歴史館と静岡市美術館で、慶喜公の特別展を今年の秋にやってもらうことになりました。

私はもちろん、慶喜公とは会ったことではなく、私にとっても徳川慶喜は歴史上の人物ということになります。よく「昔だったらよかったのに」と言われますが、今の時代のほうが私は好きです。大奥に多数の女性がいても、たぶん私は困りませんと思います。

\*

私は戦後、一般家庭の子供として静岡で生まれ、すぐに東京へ引越ししました。明治時代に徳川慶喜家が創立され、現在、

私が第四代目当主ということになっていきます。昔は使用人もいて大所帯でしたが、今は世界最少人数(私一人所帯)になってしまいました。が、この一人住まいに慣れてしまうと、とても楽です。

ほぼ月1回は国内旅行へ出かけ、年1回は全日空のファーストクラスで海外旅行を楽しんでいます。もちろん、いつも一人旅です。写真を撮っている人ならぜひ行ってみたいと思う場所、アメリカカのロチェスターにあるジョージイーストマンハウスやヨセミテ国立公園にも行きました。遠くへ行くときには世界一周航空券を使い、これまで世界一周を3回しました。ちなみに、私は外国語がまったく話せませんが、なんとかなるものです。

\*

ちょうど6年前になりますが、東京のマンションを引き払い、茨城県に1千平

方メートル(3百坪)の土地を購入し、家を建てて移住しました。茨城では車も必要のため、真っ赤な二人乗りオープンカーのトヨタMR-Sを買って乗りまわしています。

\*

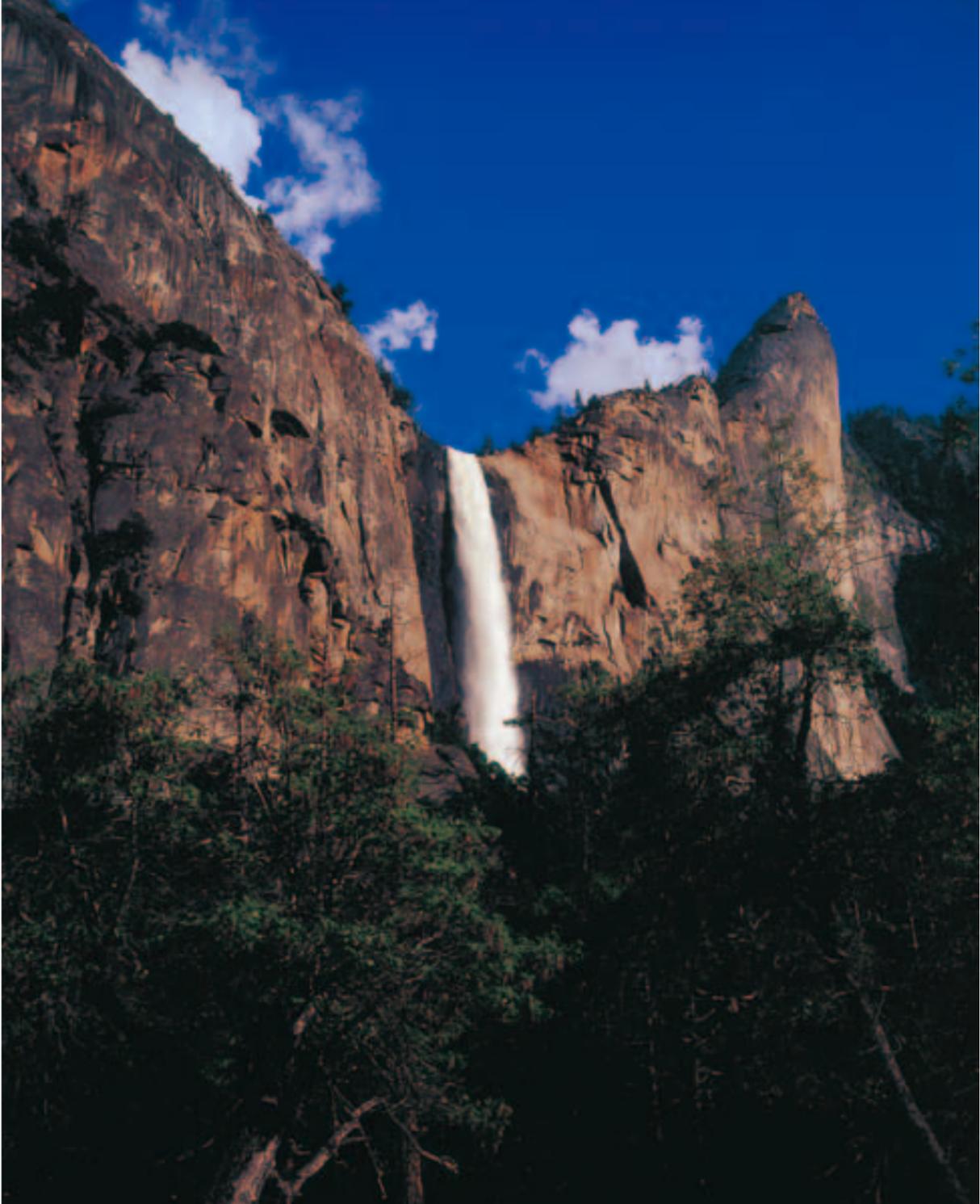
ここに掲載した私のポートレート写真は紋付羽織(もちろん葵の紋)を着ていますが、普段はユニクロの製品を着ていることが多く、ネクタイも年に数回しかしません。写真の仕事をしていると、案外と自分自身のいい写真がないもので、この写真は、千葉県松戸市の杉浦写真館で撮ってもらったものです。

私は、中・高校生のころは勉強が苦手でしたが、そのころ写真と出合っ、自分の職業はこれしかないと思い、プロ写真家になってしまいました。学校を出て東京グラフィックデザイナーという広告制作会社に入社し、撮影助手などを数年間経験してカメラマンとなり、広告写真(ホンダの二輪車や汎用製品)を大きなスタジオで撮っていました。会社には約20年間勤めました。

そして、今は毎日を遊ぶように自由気ままに暮らしています。



●写真II「ヨセミテ国立公園 プライダルベール滝」  
撮影／徳川慶朝





撮影にあたっては、モデルの内面を表現するにはどうしたらよいかを考えます。モデルの内面をより効果的に表現するために、最適な撮影場所を選び、モデルのポーズ、光の強さや光の当て方を意識して、撮影に臨んでいます。

この写真の場合は、真横から強めの光を使い、レフ板で目にキャッチライトを入れることによって、女性の気丈な一面と、その内側に潜む不安そうな気持ちを表現しました。

今回は、少し風が吹いたことでモデルの髪が揺れて、画面に動きを加えることができました。屋外の撮影では、天候などに左右されてむずかしいことも多いのですが、狙った効果と偶然に起こったことが合わさって、イメージ以上に面白い作品ができることもあります。

### 須崎義晴 (会友・大阪支部)

## ワンシーン

## 麦穂

### 井伊研一 (会友・栃木支部)

5月下旬から6月上旬になると、麦穂が黄金色に染まって、麦秋の时序を迎えます。

この麦穂に魅了され、写真表現としてここ数年間、試行錯誤を繰り返してきました。「麦穂」は、そんな中のお気に入りの一枚です。

ネイチャーやスナップ撮影では現地、現物、現象をとらえる三現主義を貫いてきましたが、今回の作品のような創作の場合は、イメージが大切であると思います。それを具現化し、光、色、形に拘り画面構成を展開しますが、結局はバランスです。これで、全ての印象が決まってしまうのです。

創作活動は独自の表現が可能で夢も広がるいっぽう、そのむずかしさも痛感しています。その分、楽しみも格別です。

今後も己の感性を磨き、新たな創造性に向け、挑み続けてゆきたいと考えています。





## 戯れ

五十嵐敏紀 (会員・秋田支部)

5月の連休になって一泊旅行に出かけました。宮城県のある温泉に泊まった翌日の5月5日、近くの泉明寺で国の重要無形民俗文化財に指定されている「秋保の田植踊」があると知らされ、寄ってみました。踊りは午前11時からとのことですが時間もまだ十分あり、境内の近くで待つことにしました。

しばらくすると子供たちも集まってきて、境内の階段で遊んでいました。見ていると15人ほどの子供たちが、それぞれ楽しそうに様々な遊びをしており、その光景を暫くスナップしました。

僕はスナップするとき、特に注意することがあります。シャッター、絞りはもちろん確認し、多少人数が多くても被写体の重なりや表情がわかるように狙い、そのチャンス待ちます。たえず動きまわる子供たちの姿に、構図も含めて必ず良い瞬間が来ると信じて待つ。そして、撮れた瞬間の感動は、とてもたまらなく嬉しい。「やったあー！」。

## 街角

神達勝之 (会員・岡山支部)

瀬戸内の風土に魅せられて写真を撮り始め、あれからもう半世紀近くになりました。

これまで瀬戸内海に面した海の風景、点在する島々、また、四季それぞれに季節の表情を見せてくれる県北部の里山や木々の佇まいなどを被写体としてきました。が、近ごろでは、身の回りの小さな自然や街角にも目を向けるようになりました。そこにも、光と影が織りなす小さな物語があるように思うからです。

ある日の昼下がり、ビルに反射した光が木漏れ日のように街の一隅を照らし、その光の中に好奇心のままに歩みだす子供と、それを見守るやさしい眼差しが影の中に沈んでいます。

偶然に出合った、こんな光と影の物語を、しばらくは追いかけてみようと思っています。



## 蒼い魚影

大和健司（会員・徳島支部）

この日の目的は干潮時に顔を出すサン

ゴの撮影でしたが、思い描いた風景には  
出合えずにフィルムを消費するだけでし  
た。ところがふと海底を覗き込むと、水  
深約10メートルに雲のように動く岩を見  
つけました。それは高さ3メートル、幅  
5メートルほどの岩を覆いつくした数ミ  
リに満たない幼魚の群れでした。

素晴らしい出合いがあれば、あとは自  
分の技量だけ。露出、構図を決め、息を  
潜めてシャッターチャンス待ちます。  
この偶然に出合っただけは、ボートが  
出港するとき、右手を海面に沈めて祈る  
ようになりました。「海の神様、写真の  
神様、私に出会いをください」と・・・。

## 『廃校の行方』

吉田 功 (会友・埼玉支部)

サイズ240×250ミリ・上製本  
モノクロ72ページ  
定価2,800円(税込)  
発行=日本写真企画



戦中戦後の経済を支えてきた農林業が衰退し、社会経済情勢や住環境が変化しました。さらには市町村の合併による統合施策に伴う少子化の影響もあって、廃校や休校が増えています。取材を始めたころはまだ過疎化の農山村部に多かったのですが、現在は都市圏の郊外でも廃校が目立っています。急激な少子高齢化によって、住宅団地を中心に局地的に就学人口が減少しているからです。

廃校という現実に直面したある中学校の

女子生徒が、「悲しい、寂しい、そして悔しい」と、絞り出すような声で話していたのが忘れられません。  
子どもたちは学んだり、泣いたり、笑ったり、遊んだりした、多くの思い出の残る学舎を失うことになりました。休校や廃校になった建物は、息をひそめるように建っています。窓ガラスが割れていたり、瓦屋根が欠け落ちていたり、校庭が草に占領されている廃校もありました。卒業生の作品が校庭に野ざらしになっていたりして、学びの舎は寂しそうです。  
廃校が廃墟にならないように願って、写真集に纏めてみました。また、今後もその行方を撮り続けたいと思います。



## 中国少数民族

## 『鄙に生きる』

井田裕二郎 (会員・群馬支部)



今から十数年前になるだろうか、中国の少数民族取材したNHKのドキュメンタリー番組の映像を見て目が釘付けになりました。それがきっかけで、中国辺境の地に暮らす人々に興味を持ち、彼らの風俗・習慣に視線を向け始めました。

それは、少数民族をテーマにしたかったのではなく、ましてや彼らの生活を紹介したり記録することでもありませんでした。そこに生きる人々の内面にまで踏み込んだ表現をしたいと思ったからです。

これまで人間の持つ哀愁感をテーマに撮影を続けてきた私は、少数民族の彼らに対しても同じ視線で自分の内に秘めた想いに向け、シャッターを切り続けました。気がつくとも訪中も30回を超えていました。しかし、一枚の作品もできなかった撮影行も、数多くあったと記憶しています。

早いもので、少数民族との出会いを求め



サイズB5判・上製本  
カラー104ページ  
定価2,625円(税込)  
発行=日本写真企画

初めて中国の鄙(ひな)びた地を訪れてから10年が経ち、ひとつの区切として作品を発表することにしました。  
そして好きな作品を纏めた写真集『鄙に生きる』が完成しました。

## 美瑛の冬

光田せいすけ

(会員・愛知支部)

美瑛の丘陵地帯の東は北海道の屋根、大雪山から十勝岳連峰などが連なっています。麓の丘陵はほとんどが畑作地であり、春から秋にかけては、それぞれの作物や花が彩りを添えます。

しかし、冬の美瑛の丘は、華やかな季節とは景観が一変します。一面が雪で覆われ、静寂な空気に包まれて深い沈黙の世界の中にあります。

この幻想的な光景と対峙して、人工的な物が視界から排除された大自然の中でシャッターを切っていると、私自身が風景と一体になったような感覚で満たされます。



# 栃木 日光の社寺

世界文化遺産

写真・文 前田孝憲 (会員・栃木支部)



神輿渡御祭の神輿



東照宮千人武者行列の若武者

日光市に暮らして、約半世紀になりま  
す。子供の頃から身近に東照宮や二荒山  
神社があり、祭りに親しんできました。  
日光信仰の起源は、勝道上人が782  
年(延暦元年)に日光山の開山を志し入  
山したのが始まりと伝えられています。  
その東国の聖地である日光山内の社寺が  
1999年に世界遺産となり、今は郷土  
の誇りと、それらを後世に継承していく  
責任などを深く考えさせられます。

## 日光は魅力いっぱいの撮影地

世界文化遺産に登録されたのは、日光  
山内にある二荒山神社や東照宮、輪王寺



勝道上人像

歴史を感じさせる滝尾神社への静かな参道



東照宮五重塔



などの103棟(国宝9棟、重要文化財  
94棟)の「建造物群」と、これらの建造  
物群を取り巻く文化的景観です。

日光は年間を通して国内外からの観光  
客が多い人気観光スポットですが、社寺  
のほかにも戦場ヶ原や中禅寺湖など自然  
も豊富で、魅力ある撮影地として多数の  
人々が四季折々に撮影に訪れます。

祭礼も多くあり、千人武者行列や弥生  
祭が特に観光の人気となっています。千  
人武者行列(神輿渡御祭)は東照宮創立  
記念の行事として、毎年5月と10月に行  
われます。神霊が三基の神輿で東照宮か  
ら二荒山神社に安置され、その後、神輿  
は神橋近辺にある御旅所に向かいます。  
鎧武者など総勢1千人以上が行列を成し  
て行進する様は壮観です。

## 荘厳な東照宮

二荒山神社は、日光の山岳信仰から建  
立された神社です。日光山内の玄関とし  
て大谷川に架かる神橋も二荒山神社の管  
轄です。神橋は伝承として、767年大  
谷川の急流に2匹の大蛇が現われ絡み合  
い橋となったと伝えられています。別名山  
菅の蛇橋とも呼ばれています。現在の神  
橋は平成の大修復によって、2006年  
に完成しました。夕刻からライトアップ  
され、大谷川の溪流に浮かぶその姿は幻  
想的な景観です。

そして、なんとといっても日光の中心は



東照宮の中門になる絢爛豪華な陽明門

東照宮です。江戸幕府初代将軍・徳川家  
康公を御祭神に祀った神社で、現在の主  
な社殿群は、三代将軍家光公によって寛  
永13年に造替されたもの。境内に入ると  
金の装飾や鳥獣神獣の彫刻が見事に調和  
した陽明門をはじめ国宝、重要文化財の  
建造物があり、歴史に造詣の深い向きに  
は興味を引く宝庫であると思います。  
実際に散策してみると、その静寂のな  
かに松尾芭蕉を偲び、山内の地には深い  
歴史・信仰・歳月を経た様々な人々の気  
が感じられる、素晴らしい空間であるの  
は間違いありません。

ライトアップで大谷川に浮かび上がる神橋



# 第61回展公募作品の 審査を終えて

対談  
森井禎紹 常任理事  
蜂須賀秀紀 常任理事

応募点数は過去最高を更新

**森井** お疲れ様でした。無事に二次審査が終了して、入賞作品が決まりました。二科会写真部展一般公募の応募点数は毎年記録を更新してきましたが、お陰様で今年も過去最高の応募点数でした。特に学生部門がかなり増えましたね。

**蜂須賀** 最近、一般的に公募展の応募総数は落ちてきていますので、二科会写真部もそうならないか心配でした。今年は去年より応募点数が多かったということに安心しました。ただ、将来はどうかと言われると、すごく不安があります。

**森井** 二科会写真部の場合は、組織として現在全国47都道府県に支部があり、支部の特別会員・会員・会友の皆さんが、支部員への働きかけなどいろいろと努力されていることも、応募点数を増やしている大切な要因の一つですので、今後ともなおいっそうのご協力をお願いしたいと思います。

**蜂須賀** ひと口に支部といっても、支部員数も応募状況も支部によってバラバラです。本部からすれば、一般応募者の皆

さんの熱意同様に、全支部が活発に活動されることを願っているわけですね。

応募作品についての印象

**森井** 応募数の増加とともに応募作品のレベルアップを図ることも、今後の課題ですね。作品の表現に実力が伴っていないというか、力不足の感がありますね。それと一般部門の場合、同じような内容の写真が多かったように思いました。

**蜂須賀** デジタルカメラがこれだけ普及して、当然、デジタル撮影が多くなっていることも、作品レベルに影響しているように思います。デジタルカメラの機能はどんどんよくなっているのに、作品レベルがそれに伴っていないですね。デジタルカメラの場合は動くものとか暗いところを撮影するのに有利で、だからスポーツ写真や動物写真、特に野性動物の写真に、よく撮れているものがたくさん見られます。ただ、よく撮れているのと作品レベルとは異なるんですが、そのあたりで応募者にズレがあるのかなと思います。結局は作品としての完成度が審査されることを理解していただけたらと思います。

**森井** 学生の場合は作品レベルが上がっていますね。これは若い人の熱心さもありますが、やはり指導者、先生方の努力もあると思います。特に今回の学生部門は、レベルが高かったように思います。**蜂須賀** 確かに学生部門の作品に、一般部門に出しても通用するんじゃないかという作品が何点あったと思います。

真のポイントはバック処理にあると思っ  
ているんですが、その処理がデジタルにな  
ってから簡単に加工できる時代になっ  
た。ですから、作品の完成度としてはか  
なり高いですね。カンガルー写真は動き  
の瞬間をユーモラスに撮ることが多いん  
ですが、それが一番のシャッターチャン  
スでとらえられていて、フォトジェニッ  
クで、見栄えがする作品です。

**森井** これは毎年のことですが、前年の  
入選作品と同じような写真が多く出てく  
るんですが、類似作品はいつも問題にな  
りますね。

**蜂須賀** 動物園でカンガルーを狙っても  
まず、これだけの写真は撮れない。誰で  
も撮れる被写体だけどむずかしい。親し  
みのもてる作品なのは確かです。

**森井** ほかに二科賞候補として残ったの  
は「祭り見物」と「里のなりわい」、そ  
して全国知事会賞になった、福井憲男さ  
んの「着付け中」ですが、これはモノク  
ロ表現で、わかりやすい写真ですね。ほ  
のぼのとした雰囲気を感じさせます。

**蜂須賀** 学生二科賞は、孫華さんの「太  
極拳」で、多重露光の手法で腕の動きを  
とらえて、独特な描写になっています。  
実際は画像合成のようですが、合成処理  
に不自然さがなくて、こちらも作品の完  
成度が高いですね。

第61回展の入賞作品について

**森井** 何回も繰り返し審査し、やっと入  
賞作品が決まりました。大竹審査委員長  
の「誰でも写せるようなモチーフを扱っ  
た写真であって、個性的な作品」という  
審査の意向もあり、最終的に「二科賞」  
「全国知事会賞」などが決定しました。  
**蜂須賀** 二科賞は久々に動物写真で、板  
倉さかえさんの「キック」というカンガ  
ルーを撮った写真ですね。私は、動物写

## NEWS FILE

### ■支部展情報

- 第22回埼玉支部展  
会期：7月9日(火)～14日(日)  
会場：埼玉会館第1・第2展示室
- 会期：8月14日(水)～18日(日)  
会場：所沢市民文化センターミュージズ
- 会期：8月20日(火)～25日(日)  
会場：深谷市民文化会館展示室

- 香川支部写真展  
会期：7月9日(火)～15日(月・祝)  
会場：高松市美術館市民ギャラリー
- 第21回栃木支部展  
会期：7月12日(金)～14日(日)  
会場：佐野市文化会館展示室
- 会期：7月24日(水)～28日(日)  
会場：栃木県総合文化センター第2ギャ  
ラリー

- 第7回徳島支部展  
会期：7月12日(金)～17日(水)  
会場：シビックセンター3階ギャラリー
- 第36回福井支部展  
会期：7月23日(火)～28日(日)  
会場：鯖江市まなへの館
- 第12回島根支部写真展  
会期：7月31日(水)～8月4日(日)  
会場：タウンプラザしまね

- 第2回奈良支部展  
会期：8月29日(木)～9月3日(火)  
会場：ギャラリーおやさと

- 第38回北海道支部写真展  
会期：9月25日(水)～30日(月)  
会場：旭川市民ギャラリー

- 2013年新潟支部公募展  
会期：10月1日(火)～6日(日)  
会場：長岡市美術館センター
- 会期：10月8日(火)～13日(日)  
会場：りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館4  
階

- 第1回岡山支部展  
会期：10月1日(火)～6日(日)  
会場：岡山県天神山文化プラザ第2展示室
- 第35回広島支部公募展  
会期：10月15日(火)～20日(日)  
会場：広島県立美術館県民ギャラリー
- 会期：11月6日(水)～10日(日)  
会場：ふくやま美術館ギャラリー

- 熊本支部写真展  
会期：10月22日(火)～27日(日)  
会場：熊本県立美術館分館

■特別会員・会員・会友・支部員情報

- 浜口タカシ写真展  
「富士山・報道写真家浜口タカシ写真展」  
神奈川支部・浜口タカシ特別会員の個展  
会期：7月31日(水)～8月5日(月)  
会場：みなとみらいギャラリーC
- 浜口タカシ・西村建子二人展  
「東北希望の旅」  
神奈川支部・浜口タカシ特別会員と西村建子  
会員の二人展

- 会期：8月28日(水)～9月2日(月)  
会場：みなとみらいギャラリーC

- 吉成正一写真展「今昔南台湾高雄写真展」  
徳島支部・吉成正一特別会員の個展  
会期：10月5日(土)～29日(火)  
会場：台湾・高雄市役所内ギャラリー
- 近藤誠宏写真展「Now Yaangon」  
岐阜支部・近藤誠宏会員の個展  
会期：9月26日(木)～10月1日(火)  
会場：ロイヤル劇場ビル3階ロイヤルホール

- 水谷サコ写真展「夢水族館」  
静岡支部・水谷サコ会友の個展  
会期：7月23日(火)～28日(日)  
会場：クリエート浜松3階ギャラリー32
- 市川恵美写真展「Free radical」  
静岡支部・市川恵美支部員の個展  
会期：7月2日(火)～7日(日)  
会場：クリエート浜松3階ギャラリー34

- 藤中浩写真展  
「白米千枚田の四季―能登半島」  
岐阜支部・藤中浩支部員の個展  
会期：9月26日(木)～10月1日(火)  
会場：ロイヤル劇場ビル3階ロイヤルホール

- 夏目幹也写真展「祭りの子」  
兵庫支部・夏目幹也支部員の個展  
会期：9月5日(木)～11日(水)  
会場：ニコンサロンbis大阪
- おおいし和子写真展「路地裏」  
兵庫支部・おおいし和子支部員の個展  
会期：10月31日(木)～11月6日(水)  
会場：富士フォトギャラリー大阪

### ■出版情報

- 石原正道写真集「叢KUSAMURA」  
東京支部・石原正道会員が、足元の叢に目  
を向け、夏草の繊細で美しく凛とした姿を  
作品としてとらえた作品集。  
2013年5月発行・サイズB5判横・モ  
ノクロ・定価2,625円  
問合せ先：日本写真企画  
TEL03・3551・2643

- 井田裕二郎写真集「鄙に生きる」  
群馬支部・井田裕二郎会員が、中国の僻地  
で暮らす少数民族の姿を10年に渡って撮り  
続けた写真を纏めた作品集。  
2013年5月発行・サイズB5判・カラー・  
定価2,625円  
問合せ先：日本写真企画  
TEL03・3551・2643

- 吉田功写真集「廃校の行方」  
埼玉支部・吉田功会友が、廃校や統廃合さ  
れた小・中学校を訪ね歩き、校舎や子ども  
たちの姿を写真に収めた作品集。  
2013年3月発行・サイズ240ミリ×  
250ミリ・モノクロ・定価2,800円  
問合せ先：日本写真企画  
TEL03・3551・2643

- 福島勲写真集「石鎚の表情II」  
愛媛支部・福島勲支部員が、西日本で最高  
峰の石鎚山の魅力ある四季の表情をとらえ  
た、130ページに及ぶ作品集。  
2012年12月発行・サイズ248ミリ×  
259ミリ・カラー・定価4,500円  
問合せ先：福島勲  
TEL089・971・3630

# INFORMATION



## ■ 2013年度行事予定



第98回二科展のチラシ

### ●第98回二科展 (=第61回写真部展)

会場=国立新美術館  
会期=9月4日(水)~9月16日(月・祝)  
10:00~18:00 [入場 17:30まで]  
9月6日(金)・13日(金)は20:00まで [入場 19:30まで]  
最終日は14:00終了 [入場 13:00まで]  
※9月10日(火)は休館  
展示点数=1,466作品(創立会員・特別会員・会員・会友:434作品、一般公募:一般部門789作品、組写真部門219作品、学生部門24作品)  
展示会場は、創立会員・特別会員・会員、会友、一般入賞入選者(地区別)の別に展示。  
※写真部の受付は展示室「2C」ですが、当日券は展示室「1A」と「2A」のチケット売場のみで販売します。入場券を当日お求めの場合は、必ずチケット売場で購入の上、ご入場ください。

### ●会期中の写真部催事

事前の申込みは不要、ぜひご参加ください。  
【ギャラリートーク】  
会場=国立新美術館2階の写真部展示エリア内。二科会写真部会員が入賞作品を中心に解説します。  
日時=9月7日(土)10:30~11:30  
森井禎紹会員・蜂須賀秀紀会員  
日時=9月7日(土)13:30~14:30  
徳永美奈子会員・大山荘一会員  
日時=9月8日(日)10:30~11:30  
藤森順治会員・鈴木洋一会員

## ■表紙のことば

### 「宴の朝」大竹省二 創立会員

ハワイの海岸に大きく枝を広げるガジュマルの巨樹。その樹に吊り下げた棚にボトルが並び、砂の上には空になったボトルがゴロゴロ転がっている。  
昨夜から明け方まで、ここで野外の宴が賑やかに繰り広げられていたのだが、朝日が海の向こうから射しはじめると、一人二人と立ち去った。  
すっかり明るくなった浜辺の樹の下には、なぜか女が一人残った。いつもの静かな朝を迎えた。

### 【セミナー】

会場=国立新美術館3階研修室。  
二科会写真部会員が、スライド上映を交えながら撮影のテクニックや体験などを紹介する写真講座です。(入場無料)  
日時=9月8日(日)13:30~15:30  
＜第1部＞講師:佐藤ちえ子会員  
＜第2部＞講師:蜂須賀秀紀会員

### ●2013年度夏期定時会員会友総会

日時=9月6日(金)13:00~(予定)  
会場=東京プリンスホテル  
出席者は特別会員・会員・会友・支部長

### ●第61回展授賞式・懇親会

日時=9月6日(金)14:20~(予定)  
会場=東京プリンスホテル  
出席者は来賓・特別会員・会員・会友・入賞者・入選者および同伴者

## ■(社)二科会写真部石川支部主催撮影会の開催決定

日時=10月19日(土)13:00~16:30(予定)  
会場=石川県金沢市・金沢城公園 三の丸広場  
参加料=5,000円(予定)  
募集人員=150名(予定)  
詳細は、9月上旬発行予定の広報誌『REAL』20号に掲載します。

## ■広報誌『REAL』誌上コンテスト

(社)二科会写真部の支部員を対象に写真コンテストを実施します。作品プリントを応募いただき、優秀作品を広報誌『REAL』に掲載。作品募集の詳細は、9月上旬発行予定の広報誌『REAL』20号に掲載します。

## ■『第61回展二科会写真部作品集』を二科展初日に発刊

2013年度「第61回二科会写真部展」に展示する全1,466作品をオールカラーで掲載した作品集を刊行します。巻末に入賞者受賞感想、第1回展~第61回展までの入賞者・会員会友推薦者一覧、創立会員・特別会員・会員・会

友・入賞者・入選者の出品目録などを収載。  
発行予定=9月4日  
並製本・サイズA4判変形(297×225ミリ)・カラー396ページ・本文50ページ。  
頒布価格15,000円。特別会員・会員・会友・支部員・第61回展入賞者および入選者は特別価格13,000円。支部員以外の第61回展応募者は14,000円(いずれも送料実費)。  
購入希望者は、所定の申込書を事務局にご請求ください。

## ■第98回二科展(=第61回写真部展)地方巡回展スケジュール

大阪展:2013年10月30日(水)~11月10日(日)・大阪市立美術館  
金沢展:2013年11月15日(金)~24日(日)金沢21世紀美術館  
京都展:2013年11月28日(木)~12月8日(日)・京都市美術館  
名古屋展:2013年12月18日(水)~23日(月・祝)・愛知県美術館ギャラリー  
広島展:2014年1月7日(火)~12日(日)広島県立美術館  
鹿児島展:2014年3月5日(水)~16日(日)鹿児島県歴史資料センター黎明館  
福岡展:2014年3月25日(火)~30日(日)福岡市美術館  
※会場によって展示スペースが異なるため、すべての作品が展示されない場合もあります。

## ■特別会員・会員・会友情報

西條征二会友(徳島) 2013年2月13日自主退会  
糸井英雄特別会員(大分) 2013年5月14日逝去

## 二科会写真部広報誌「REAL」Vol.19

2013年7月15日発行  
発行所/一般社団法人二科会写真部  
発行人/大竹省二  
編集/一般社団法人二科会写真部  
〒106-0031 東京都港区西麻布1-4-20  
ワルトハイム西麻布601  
TEL.03-3470-8033 FAX.03-3470-8034  
<http://www.nika-shashin.or.jp>